

2013年10月

● 霊山東京実務者会議(2013年10月17日)

13時30分～15時30分に、番町ハイム1階会議室で開催されました。内容は復興庁支援事業の今後の詳細分担、地元との打合せ結果のレビュー、今後のスケジュール詳細、試験水田の籾、稲茎、水田土壌の分析方法でした。

● REPA 情報交換会(2013年10月16日)

REPA 情報交換会は10月16日(水)18時30分～20時30分、千代田区一番町集会室でおこなわれました。話題提供は、株式会社 流体力学工房代表取締役佐藤和浩氏による太陽光発電事業の動向です。同社の特殊な球状シリコンセルを利用した、軽量(約1/20)で曲げられて割れにくい太陽光発電パネルとこの特性を利用したソーラーボール <http://www.fldy.jp/solar/> をご紹介頂きました。製造は中国でおこなわれており、今後の市場への普及が期待されます。さらに、福島県の地元の人たちと取り組んでいる新しい省エネ産業の構築事業についての報告がありました。様々なリソースをもつ個人や企業の支援と、地元住民の協力を得て進めている取り組みはとても興味深い内容でした。



株式会社 流体力学工房代表取締役佐藤和浩氏

REPA 情報交換会風景

● 水田除染活動(2013年10月4日)

霊山プロジェクトは、好天の下、大波ご夫妻、大沼氏、佐藤好孝氏の御指導により40m²の試験水田8枚と畔2か所の合計10か所の稲刈りを実施しました。REPAの会員の中には稲刈りが初めての人もおり、筋肉痛が出るなど気持ちのよい経験をしました。刈り取った稲は、稲架(ハセ)に掛け天日干しましたが、稲切り株の根元が不揃いでいかにも素人の稲刈り作業かが判ります。

また、江戸時代に考案されたという千歯扱(センバコキ)により脱穀も初体験でした。上流工程の稲刈り、結束、先端揃えがきちっとしていないと、後段の脱穀作業が手間取ることを身を持って体験しました。



皆で稲刈り。鎌を持つ手が
振るえてる！？



不揃いな稲架(ハセ)に掛け



千歯扱(センバコキ)により脱穀